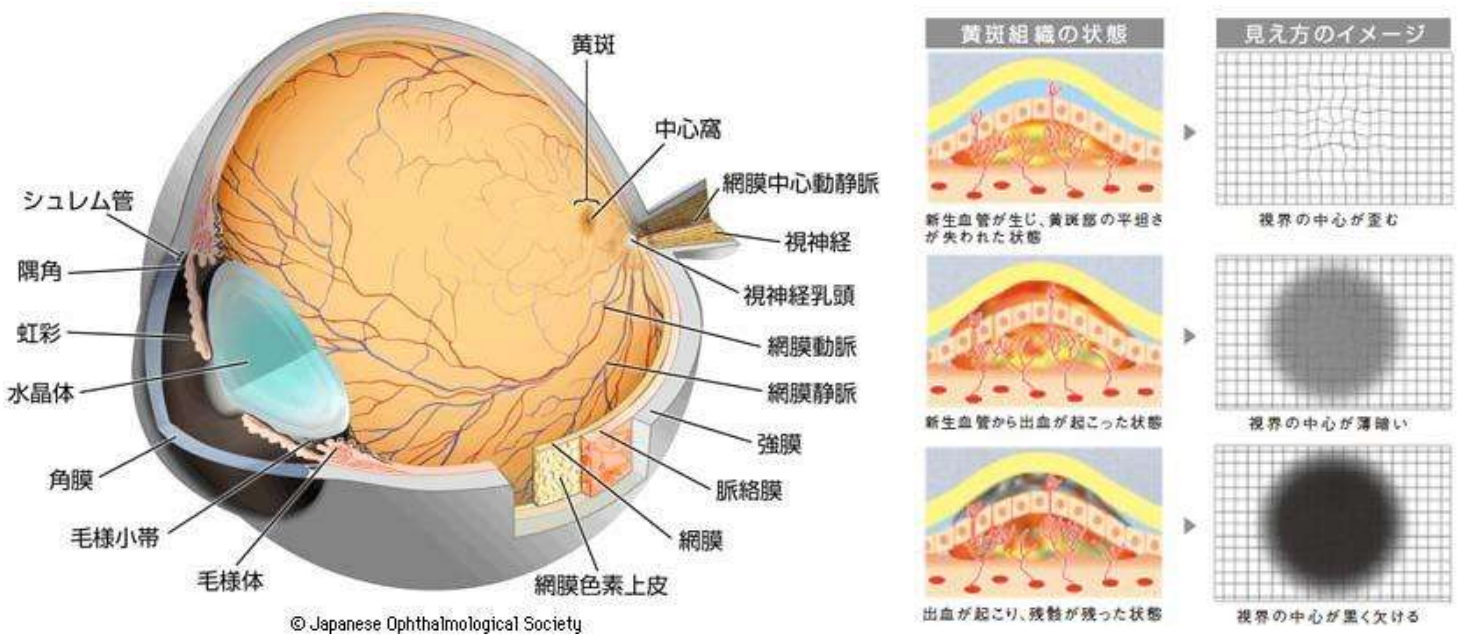


週刊 **タバコの正体**

タバコを吸い続けると、身体の様々なところにダメージが蓄積されます。歯や歯ぐき、肺、血管、心臓……。その結果、肺がんや脳卒中、心筋梗塞などの病気になり命を失う場合が少なくありません。そればかりか日常生活においては、“味覚”や“嗅覚”にも影響する事も紹介しましたね。そしてさらに、タバコはなんと“視覚”をつかさどる“眼”にもダメージを与える場合があるのです。

喫煙は、下図に示す「黄斑変性症」(おうはんへんせいしょう)という、ものの見え方がおかしくなる病気になる可能性を高めます。



私たちは、眼の網膜に届いた光をもとに脳で画像に変換されたものを「見ている」と感じています。その網膜の中心にある1.5~2mm程度の部分が黄斑おうはんと呼ばれていて、その黄斑に異常があると、上図右のように視野の中心がゆがんで見えたり、黒く欠けたりします。これが「黄斑変性症」という病気なのです。

この病気の原因は、黄斑にある毛細血管が詰まって血液が流れなくなる事がきっかけとなるそうです。遺伝的な要因も含まれているようですが、タバコを吸うと“血管が詰まる”確率を高めるので、喫煙者がこの病気を発症する確率は高くなるのです。

タバコは、“味覚”、“嗅覚”、そして“視覚”にも悪影響を与えます。そこまで犠牲にして喫煙するなんて、「ありえへん」ですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久